



写真1
中之門の石垣
本丸への正式な入口、
江戸城内で最大級の石を使用

江戸城の石垣

江戸城の石垣は、皇居東御苑に数多く現存する。石垣は、時代によって石の加工の方法や積み方が異なる。江戸城は築城期間が長かったため、その築造技術の発展をうかがい知ることが出来る。

積み方のなかでも、最も発展した隅石(石垣の隅角部)の積み方である「算木積(さんきづみ)」に着目する。算木積は、直方体に成形した石を長辺と短辺を互いにかませ重さを分散させることにより石垣の強度を増す。築造時期による精度の違いは顕著に現れる。例えば、江戸初期(慶長期)北桔門の石垣(写真2左)は、技術が発展途上であるのに対し、天守台は、明暦の大火の後の江戸中期万治2年(1659年)に最高峰の技術を持つ加賀前田家により積まれた一級品で精度が高い。南東隅(写真2右)は幕末の火災で石が欠けたものの北東隅は完存し、日本一と言っても過言ではない形姿の美しさに目を奪われる。天守台の全貌は、昨年9月に公開された寛永期の天守の復元模型(1/30)で確認出来る。

一昨年秋、苑内の工事現場の地下から、現存する最古とみられる石垣の塀が出土した。約400年前の江戸初期(慶長期～元和期)に造築されたと推定される。石垣の塀は、堀が城の改築でほどなく使われなくなったため、当時の姿そのままに残っていた。発掘調査が進むなか、保存や展示については、石垣が地下にあるうえ脆弱な積み方である故危険なことから、埋め戻しが行われることになった。江戸城の石垣からは今後も目が離せない。

<参考>

○宮内庁 皇居東御苑

<https://www.kunaicho.go.jp/event/higashigyoen/higashigyoen.html>

○千代田区観光協会 「ちよだ歴史さんぽMAP」シリーズ「第1弾 “江戸城とお堀めぐり”

<https://visit-chiyoda.tokyo/app/information/detail/85>



写真2：左：北桔橋の石垣、右：天守の石垣(南東隅)

